

日本体育協会

# 総合型地域スポーツクラブ公式メールマガジン

特集

## 既存施設を上手に活用しているクラブ

### NPO法人おにすぽ ～手づくりが基本の施設活用術～



#### キーポイント

- キーパーソンが中心となり、利用状況の悪いグラウンドを整備、利用状況改善
- 空き店舗を改修してクラブハウス化
- 地域での活動を認められ市内施設の指定管理者となる

## 1 クラブの概要

「NPO法人おにすぽ(以下、クラブ)」(北海道登別市)は、平成22年2月27日「のぼりべつスポーツコミュニティクラブおにすぽ」として、健康で笑顔溢れる社会づくりを理念として誕生しました。地域のサッカークラブチーム、卓球協会、登別山岳会がクラブ創りを推進し、たくさんの関係者の想いを詰め込んでのスタートとなりました。その後、クラブ運営に専念するため学校職員を退職した磯田クラブマネージャー(現理事長)がキーパーソンとなって地域施設の再利用を図り、これまで「グラウンドの確保」「クラブハウスの開設」「市民活動拠点施設の指定管理者となる」など、地域に根付くクラブ周知と種目の充実を図っています。

## 2 利用状況の悪いグラウンドを自ら整備

クラブでは屋外施設として、地域のグラウンドを練習や大会開催で使用しています。しかし、当初はほとんど活用されておらず、利用する側の視点で管理されているとはいええない状況でした。そこで磯田理事長が学校職員としての経験を活かして、「手間をかけずにグラウンド整備ができるはず」とクラブ関係者に提案し、次に行政担当者に「あのグラウンド、僕たちがきれいにしてもいいですか?」と交渉した上で、整備を始めました。

磯田理事長の知人の建設業者に協力して頂き、会員、関係者と共に自賄いで整備を進め、市の予算を下回る経費で管理業務を行うことが実現できました。その実績が認められ、行政から整備委託契約を受けることができました。今では利用申請を出してまで使用したいという団体が増えています。

## 3 空き店舗をクラブハウス化

クラブでは、シャッター街と化していた駅前商店街の空き店舗をクラブハウス化しました。登別市では、商店街活性化に向けて空き店舗助成制度を実施していたので、クラブではその助成制度に着目し、1階が店舗・2階が居住空間・駐車場が15台分ある、元は選挙事務所として活用されていた店舗を発見し、賃貸契約を結ぶことを計画しました。ところがその過程で、その店舗が助成制度対象外地域であることがわかりました。

しかし、クラブハウスを持つことの意義や活動の自由度が増すことを見据えた結果、新たなプログラム開発やクラブハウスの賃貸料を稼ぎ出す仕組みを生み出すことで経費面は対応しようと考え、契約・開業に向けての準備が始

まりました。クラブハウスのパーティーションは選挙事務所として使用されていたものをリサイクルし、内装はすべてスタッフの手づくりとしたため安価となりました。

### ■主な経費

|                    |         |          |
|--------------------|---------|----------|
| ① 間仕切りなどの費用        | 約 10 万円 |          |
| ② スタジオ用の鏡貼り付け(壁全面) | 約 25 万円 |          |
| ③ 音響設備             | 約 20 万円 |          |
| ④ 備品(デスク・ロッカーなど)   | 約 15 万円 |          |
| ⑤ 契約料              | 20 万円   | 合計 90 万円 |

手作りのため予定よりは遅れましたが、ダンススタジオのあるクラブハウスが完成し、開業を迎えました。

毎月の賃貸料は駐車場込で10万円ですが(経費はクラブ会費収入で対応)、スポーツ観戦の会場、会議室等としても活用できます。また、クラブのバスも購入し、地域住民に役立つクラブとして前進しました。既存施設を活用するという意識の高さがこれらの投資に結び付き、大きなチャンスとなったと考えています。



## 4 地域で選ばれにくい施設の指定管理者となる

クラブでは、さらなる安定したクラブ運営のために指定管理施設の確保を目標としました。競合する公共施設は避け、敬遠されがちな施設をクラブが再生するという意識のもとに「市民活動センターのぼりん」の指定管理者となりました。この背景にはグラウンド整備、クラブハウスの開業、総合型クラブとしての活動実績などの積み重ねが行政から評価されたと考えられます。地域住民目線による活動の構想、ホスピタリティの意識、リスクマネジメントなど、総合型クラブで学んだノウハウが現場で生かされています。

## 5 今後の展望

磯田理事長の発想、行動力は「一期一会」の活用です。これがクラブにとっての推進力となっています。それに加え、外出しがちな理事長をしっかりと支えている事務局があるからこそクラブとしての成長を遂げています。今回の指定管理を受けた市民活動センターが、スポーツだけではなく市民活動と一体化した「総合型クラブ」としての大きな一歩と感じています。

(北海道クラブアドバイザー 久保田智)

## クラブプロフィール

設立年月日：平成22年2月27日

平成25年3月19日法人格取得

地 域：北海道登別市全域

運 営：会員数 250名(平成25年6月現在)

予算規模 2,700万円

特 徴：10種目15展開の定期教室の開催と、Jリーグのサッカー教室などイベントも多数開催。地域FMをスポンサーラジオ放送で市民活動を紹介する番組を開設。福島県総合支援事業を受託し、白樺の木を被災地に送り、その加工品の制作・販売を通じて得た収益金により被災地を継続支援するなど枠組みに囚われない幅広い活動を行っています。

連 絡 先：登別市富士町4丁目6番地2

TEL・FAX：(0143)81-7444

E-mail：[noboribetsusc@yahoo.co.jp](mailto:noboribetsusc@yahoo.co.jp)

クラブHP：<http://onispo.web.fc2.com>